殿様と屁ったれ権平

昔々、あるところにきこりの権平という者がおったと。権平は唄をうたうことと屁を鳴らすことが大の得意であったと。

毎朝早ぐに奥山や入っては、斧をふるって大木を切るのだども、一本切るたんびに遠ぐの山さ向がって

「お山の大将、権平でござる　むじな、きつねは家来とござる」

と唄ってがら、大きく息を吸って

「ぶ、ぶ、ぶ、ぶう」

と屁をたれるのであったと。山のむじなやきつねも権平の屁に合わせて

「コーン、コーン」「ウォーン、ウォーン」

と鳴くのであったと。

里の者がたはいつの間にが「屁ったれ権平」と呼ぶようになったと。

この話がお城の殿様さ聞こえで、殿様は大した珍しいと、家来を連れで山さ権平を尋ねて来たんだと。

殿様がたが山奥さ入ると、斧の音が聞ごえて、権平の姿が見えできたと。権平は差し渡し二尺もある大木を切り倒すと、大きた声で遠くの山に向かって唄をうたったと。

「お山の大将、権平でござる　むじな、きつねは家来とござる」

してから

「ぶ、ぶ、ぶう」

と屁を鳴らしたと。屁は山々にこだまして

「ぶ、ぶ、ぶ、ぶう」

と響きわたったと。したら、あちらこちらきつねやむじなが出てきて、一斉に

「コーン、コーン」

「ウォーン、ウォーン」

と鳴きたてたとさ。

殿様はたまげてしまい、見事なわざだと賞めたと。それがらもう一回聞がせてけれと頼んだと。権平は木を切り倒すと唄をうたい、大きく息を吸って

「ぶ、ぶ、ぶ、ぶう」

と鳴らしたと。それから低く、高く

「ぶ、ぶ、ぶ、ぶう」

と鳴らしたものだがら、殿様はもっと感心してしまって、ごほうびにその山をくださったと。　とっぴんぱらりのぷう